



rsh コマンドの実行方法
AdRem NetCrunch 14 参考資料

内容

1. rsh コマンドの実行の概要	1
2. バッチファイルの定義	1
2.1. ユーザーの指定	1
2.2. nm2 有償版を利用する場合	1
3. NetCrunch の設定	2
3.1. Windows エージェントレス監視の確認	2
3.2. アラートアクションの追加	2
アラートスクリプトの定義.....	2
アラートスクリプトの適用.....	3
3.3. NetCrunch ノードの IP アドレス.....	3

1. rsh コマンドの実行の概要

本資料では、AdRem NetCrunch14.x 日本語版(以下 14)における Windows の rsh コマンドを実行する方法について記載します。他社製品のコマンドの利用方法は、製品のマニュアル等をご参照ください。なお、ご利用の NetCrunch のビルド番号が異なると、仕様の変更などにより、動作、設定などが異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。

本文書では、イベントが発生した際に rsh コマンドを実行する方法として、バッチファイルを利用する場合について記載しております。アラートアクションにバッチファイルの実行を定義することで、NetCrunch から rsh コマンドの実行が実現できます。

なお、現在 Microsoft 社でサポートされている Windows Server では rsh コマンドなどに対応した SUA はご利用いただけません。下記の Web ページを併せてご参照ください。

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn303411.aspx>

補足となりますが、Windows Server 上にて rsh コマンドを実行できるソフトウェアを、有償にてご提供しております。ソフトウェアを利用することで、Windows Server 2016/2019/2022 でも rsh コマンドの実行が可能となります。ご興味がありましたら、株式会社情報工房までお気軽にお問い合わせください。

https://www.johokobo.co.jp/nm2/nm2_index.html

2. バッチファイルの定義

バッチファイル内には、任意の rsh コマンドを定義します。rsh コマンドの定義に関する注意事項について、記載します。

2.1. ユーザーの指定

通常、コマンドプロンプトなどから rsh コマンドを実行する場合は、Windows にログインしたユーザーが付与されるため、コマンド上にユーザーを指定してない場合であってもコマンドが正常に実行される場合がございます。しかし、NetCrunch 関連のサービスは、デフォルトでは「ローカルシステムアカウント」として稼動しているため、コマンドにユーザーが付与されません。NetCrunch から rsh コマンドを実行する場合には、コマンド上でユーザーを指定する必要があります。

2.2. nm2 有償版を利用する場合

nm2 有償版は、Windows Server 上にて rsh コマンドを実行できるソフトウェアです。nm2 有償版を利用することで、SUA を利用できない Windows Server 2016/2019/2022 であっても、rsh コマンドを実行することが可能です。

【例】

<nm2 のパス> RSH <IP アドレス> <ユーザー名> <コマンド>

3. NetCrunch の設定

NetCrunch 側の設定について、記載いたします。

3.1. Windows エージェントレス監視の確認

NetCrunch からバッチファイルを実行する場合、Windows 監視を行う必要がございます。デフォルトインストールの場合、NetCrunch は自動的に自身のサーバーに対して Windows 監視を行っております。NetCrunch ノードを右クリック→[ノード設定]→[監視]タブより[OS 監視]欄が有効化されていることを確認してください。有効化されている場合、[Windows]欄が表示されております。有効されていない場合、[OS 監視]欄右側の[有効化]ボタンをクリックし、[Windows]を選択して、OS 監視を有効化してください。

3.2. アラートアクションの追加

アラートアクションの追加手順について、以下に例示します。なお、以下の手順ではアラートスクリプトを設定し、イベントに対して適用しております。その他、イベントに対して直接アラートアクションを定義することも可能です。

アラートスクリプトの定義

1. NetCrunch メインメニュー→[NetCrunch]→[アラート通知]→[アラートスクリプト]を選択します。
2. [アラートスクリプト]ウィンドウにて、[追加]をクリックします。
3. [アラートスクリプトの編集]ウィンドウにて、スクリプト名を設定します。
4. [追加]→[すぐに実行されるアクション]または[遅延後に実行されるアクション]または[アラートクローズ時に実行するアクション]を選択します。
5. [アクションを選択]ウィンドウの[コントロール]タブにて、[コンピュータ]→[Windows プログラムの実行]をダブルクリックします。
6. [アクションパラメータの編集]ウィンドウにて、以下の設定を行います。
プログラム実行ホスト: <NetCrunch ノード>
ファイル名: 用意したバッチファイルのパス
7. その他必要に応じて設定の上、[OK]をクリックします。

アラートスクリプトの適用

1. NetCrunch メインメニュー→[NetCrunch]→[アラート通知]→[監視パックとポリシー]を選択します。
2. 対象のイベントが定義されている監視パックやノードグループポリシー、ノードを開きます。
3. 新しく開いたウィンドウの[アラート]タブにて、対象のイベントを右クリック→[定義済みアラートスクリプトの適用]から対象のアラートスクリプトを選択し、[OK]をクリックします。

3.3.NetCrunch ノードの IP アドレス

NetCrunch では、NetCrunch ノードとなっている IP アドレスでバッチファイルを実行します。NetCrunch 搭載サーバーが複数のインターフェースを持つ場合、NetCrunch ノードの IP アドレスにご注意ください。rsh コマンドの実行先で IP アドレスでの制限がある場合、NetCrunch ノードの IP アドレスを許可する必要があります。

NetCrunch ノードの IP アドレスを変更する場合、NetCrunch のメインメニュー→[NetCrunch]→[監視]→[一般]を選択すると、設定画面が開きます。開いた設定画面の[NetCrunch IP アドレス]欄のプルダウンメニューより選択できます。